

# 公園施設配置のお願い

青山地区防災拠点連絡協議会

事務局案		井上案			
参考図	<p>ふれあい広場 (人工芝) (0.89ha) ふれあい広場 (人工芝) (0.00ha) アリーナ 賑わい施設 モビリティハブ R226 (NAGOYA6) SPA</p>	<p>愛知県施設との境界 駐車場 アリーナ 賑わい施設 賑わい施設 張り出し大屋根 上部 (オープンデッキ) 芝生広場 バス・タクシー・グリスロ待機場 R214 R226</p>			
	<p>①アリーナを西北角、賑わい施設を変電所西に設置 ②モビリティハブ????を賑わい施設前に設置 ③バスロータリーを設置しない ④バスは左側から昇降するため、一方通行で南側から入り東側に抜ける。 ⑤一般車両は南からでも東からでも出入り出来る。</p>	<p>①アリーナを中央西北向き、賑わい施設をアリーナ南東端両翼に設置 ②公共交通・レンタサイクル等のハブ機能を、賑わい施設前に設置 ③ハブ機能通路がバスロータリーの役割を果たす。(一般車進入禁止) ④バスは左側から昇降するため、一方通行で東側から入り南側に抜ける。 ⑤賑わい施設・大屋根の高さを8m以下に抑える。</p>			
評価	寸評	判定	評価項目	判定	寸評
	車での来場者に配慮されており、徒歩来場者への配慮がない。	×	地域住民に対する効果	○	徒歩来場者の歩行者動線が最短になる様に配慮されている。芝生広場が住宅付近になり、地域住民の憩いの場となる。
	県道から駐車場へのアクセス性がよい。	○	自動車来場車に対する効果	△	駐車場からアリーナ・県施設への動線は短くなる。県道から駐車場への車両動線が長くなる。
	賑わい施設・広場へのアクセス性がよい	○	県施設利用者に対する効果	×	愛知県施設との連携がとりつらくなる。
	駐車場が大きく景観を損ねている。	×	景観	◎	左右対称の様式美に配慮されたレイアウトになっている。
	井上案と比べ低コストでの建設が可能	○	コスト	×	建設コストが高額となる。
	歩行者・公共交通・一般車両の動線が錯綜している。。	△	安全性	○	歩行者・公共交通・一般車両の動線が分離されている。
進入車両を抑制出来ません。	×	侵入車両抑制	○	駐車場通路が通り抜け可能となることにより、集落への進入車両を減らす 効果が期待できる。	

# 効率のよい安全なバスルートが選択できる配置を望みます。

青山地区防災拠点連絡協議会

参考図

バス運行ルートは、一方通行で南側から入り東側に抜ける。



バス運行ルートは、一方通行で東側から入り南側に抜ける。



説明

- ①バスの運行ルートは、一方通行で南側から入り東側に抜ける。
- ②バスは左側から昇降するため、バス停は賑わい施設側になります。
- ③臨空第2公園から豊場方面に向かう場合、公園東側から出たバスは、左折しダスキン前ラウンドアバウトを再び左折、R41号多気中町東交差点を左折して豊場方面に向かうことになります。

- ①バスの運行ルートは、一方通行で東側から入り南側に抜ける。
- ②バスは左側から昇降するため、バス停は賑わい施設対面側になります。
- ③臨空第2公園から豊場方面に向かう場合、公園南側から出たバスは、左折し八剣神社北ラウンドアバウトをUターンし、R41号青山江川交差点を左折して豊場方面に向かうことになります。

※ 安全に配慮し出入り口の右折を禁止した場合の運行ルートです。

評価	寸評		判定		評価項目		判定		寸評	
	バス停が遠くなる。		△	地域住民に対する効果	○	バス停が近くなる。			○	バス停が近くなる。
賑わい施設へのアクセス性が向上する。		○	バス来場者に対する効果	△	賑わい施設からバス停への距離が遠くなる			△	賑わい施設からバス停への距離が遠くなる	
バスの運行距離が長くなり、燃料コストが高くなる。		×	コスト	○	バスの運行距離が長くなり、燃料コストが高くなる。			○	バスの運行距離が長くなり、燃料コストが高くなる。	
バスの運行距離が長くなり、環境に優しくない。		×	環境性能	○	バスの運行距離が短くなり、環境に優しい。			○	バスの運行距離が短くなり、環境に優しい。	